

釧路（北海道）

救急教室でAED学ぶ
実技を交えた説明が参考に

釧路商工会議所女性会は7月19日、市民救急教室を実施。同教室には、女性会メンバー10人が参加した。当日は、釧路市消防本部中央消防署東分署の救急担当が講師を務め、メンバーらはAED（自動体外式除細動器）の使用方法や、胸骨圧迫による心



▲胸骨圧迫による心肺蘇生法を体験



▲救命措置の重要性が説明された

肺蘇生法などについて説明を受けた。

実際に人形を使って実践する場面もあり、参加したメンバーからは、「とても参考になった」「緊急事態に遭遇したとき、どうすればよいか、体験できて良かった」などの声が挙がっている。

五所川原（青森県）

熊本地震の被災者を支援
チャリティティー販売を実施

五所川原商工会議所女性会は7月30日、熊本地震で被災した方々への支援を目的に、チャリティティー販売を実施した。同事業は、同女性会が平成29年5月25日に創立30周年を迎えることから、その記念事業として行われたもの。



▲創作料理など販売する梅沢氏（左から3人目）と女性会メンバー

守口門真（大阪府）

防災・減災対策講演会を開催
備えの大切さを再認識

守口門真商工会議所女性会は8月23日、例会において防災・減災対策をテーマにした講演会を実施した。当日は、守口・門真両市役所の担当者が登壇。メンバーと事務局合わせて14人が参加した。

講演会では、守口市危機管理室の担当者から「地震の際の転倒防止策」について、門真市危機管理課の担当者から「水害や洪水対策」についての説明があった。参加者は熱心に耳を傾け、質疑応答も活発に行われた。

参加者は、「震災や水害も相次ぎ、南海トラフ地震が30年以内に70%の確率で起こり得るといわれている今、災害はいつでも起こり



▲具体的な説明に、真剣に聞き入るメンバーら

笠岡（岡山県）

「パステルアート教室」を開催
親子のふれあいの時間を提供

得るといふ認識を持って備蓄をしたり、避難時の必需品を準備することの大切さが分かった。事業所では地域とのコミュニケーションを図り、いざというときに助け合いができる協定ラインをつくっておくなども必要だと感じた」と話している。

笠岡商工会議所女性会は8月7日、笠岡市内の小学生とその親を対象に、「パステルアート教室」を開催した。同教室は、パステルアートを通じて、夏休みに親子のふれあいの時間をつくってもらおうと企画したもの。昨年に引き続き2回目となった今回の教室に



▲30組の親子が教室に集まった

同女性会のメンバーが五所川原市内にある立佞武多の館前に立ち、地元産のつくね芋やキノコ、タケノコなどを煮込んだ創作料理「ごしょ山宝汁」、津軽名物「ほんじゅそば」などを全品200円で販売し、募金を呼び掛けた。

当日は、同女性会の熊本支援活動に共感した「梅沢劇団」座長で俳優・歌手の梅沢富美男氏が訪れ、女性会とおそろいの法被を着て活動に参加。多くの来場者やファンらとの握手や記念撮影に、笑顔で応じた。

この活動による売上と募金は、8万9085円にも及んだ。熊本県の被災地へ義援金として送られる。

加茂（新潟県）

東日本大震災から5年
福島県南相馬市を視察

加茂商工会議所女性会は7月6日、東日本大震災で被災した福島県南相馬市への視察研修会を実施した。同研修会は、震災から5年、いまだ加茂市で避難生活を余儀なくされている人々もいる中、福島県の実情を肌で感じ取ろうと企画された。

当日は、南相馬市への復興の思

は、30組の親子が参加した。中には前回も参加したという親子もいたほど人気の事業となっている。

パステルアートとは、パステルを使って指で画用紙に描いていく画法。初めての人でも気軽に描いて楽しめることで、人気を得ている。2時間半を超える教室だったが、子どもたちは終始、集中して楽しそうに製作していた。

同女性会では、「親子で一つの作品を仕上げていく様子がとても微笑ましかった。夏休みのよい思い出になったのではないかと話している。



▲子どもたちも真剣なまなざしで製作

宮崎（宮崎県）

市民総おどりに参加
女性会の元気をPR

宮崎商工会議所女性会は7月23日、宮崎市橋通りで開催された「まつりえれこっちゃんやぎざき市民総おどり」に参加。メンバー21人が、優雅な踊りで祭りを

いを込めて植樹された大内公会堂の「雪椿」や、一時避難後に仮店舗で営業し、平成28年5月に震災前の店舗で営業を再開した双葉食堂などを訪ねた。大内公会堂の雪椿は、26年、加茂市に避難していた「南相馬市に雪椿の花を咲かそうの会」発起人の木幡史子さんが中心となって募金を呼び掛け、加茂市の花である雪椿の苗およそ300株を植樹したものだ。

双葉食堂では店主の豊田英子さんと、小高商工会女性部のメンバーらから現在の南相馬市の話を聞いた。これをきっかけに、11月には同女性部メンバーが加茂市を訪れることになったという。

加茂商工会議所女性会は、「震災が縁となって新しい交流が生まれたい」と話している。



▲大内公会堂に植樹された雪椿を視察する女性会メンバー

盛り上げた。

同イベントは、毎年、市の中心市街地商店街で繰り広げられるエネルギーな夏祭り。一般、中高生、ジュニアの部に分かれてダンスを競うダンスコンテストや、市民が総出で踊る「市民総おどり」などが行われている。

今回で15周年となった市民総おどりに、67団体約5000人が参加した。



▲そろいのゆかたで参加した女性会メンバーら



▲「のさん節」などに合わせて優雅な踊りを披露した